



朝一小だより

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和7年8月29日

児童数 613名



未来のために大人がしなければならないこと

校長 金子 二郎

夏休みも終わり、子供たちの元気な笑顔と歓声が学校に帰ってきました。この夏は国内の各地で最高気温が40℃を上回る記録的な猛暑が続いたかと思えば、鹿児島や東北地方をはじめ警報が発令されるような大雨が続き、県の内外を問わず大きな被害がもたらされました。まだまだ熱中症と突然の雷雨、いずれに対しても備えが必要な日が続きます。保護者や地域の皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。また、2学期も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。



今年は昭和で数えると100年、そして戦後80年の節目となる年です。そのためか夏休み中、メディア上で「この80年の間で私たちは幸せになれたのだろうか」という問いかけを幾度となく眼にしました。高度経済成長とバブル経済を享受した世代の私にとっては、少なからず居心地のよい社会であったかと感じます。しかしながら同時に、深刻な社会問題が解決されないまま先送りされ、様々な面で格差も拡大

し、最近ではそこから差別や偏見が強まることで排他的な言動がネットを中心に見られるようになったとも感じます。夏休み中、差別の現実に学ぼうと本校からも若手教職員が現地研修に参加しました。私も国立ハンセン病資料館で開催された研修に参加しました。子供たちに説いている以上、「差別はいけないのは当たり前」とは分かっているものの、これまで解消されてこなかった差別の実相に触れて改めて自身の理解の浅さを実感しました。受動的に得られた情報に反応しているだけでは問題は解決されず、進んで学ぼうとしなければ行動に結びつくことはないと感じました。8月6日の平和記念式典において松井一



實広島市長は平和宣言の中で次のように述べています。「核兵器のない平和な世界を創るためには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみることが大事であり、決してあきらめない『ネバーギブアップ』の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者。こうした被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切になっています。」戦後100年となる時、一小の子供たちはこの社会を支える中核となって活躍しているはずですが、人口が減少し繁栄を維持するのがこれまでの80年に比べ難しくなっていることは想像に難くありません。異質な他者を排除し自分だけの居心地の良さを追求するのではなく、粘り強く対話を続けることで誰もが幸せに暮らすことのできる社会をめざしながら、平和を守っていく責任が大人にはあります。子供たちが主役となったその時に、互いの意見の相違を乗り越え、違いを個性として活用することで共存をめざす寛容な社会となっていることを心から願っています。



過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである (Aインシュタイン)